

## 第7回 A-TS 17-03 安全と標準・認証研究会 議事録

1. 日時 2004年6月11日(金) 13.30 ~ 16.30
2. 場所 日本機械学会会議室(東京・信濃町 煉瓦館5階)
3. 出席者(順不同、敬称略)  
杉本委員長(北九州市立大学)、坂(三菱総研)、斎藤(産業安全研究所)、田中(長岡技術科学大学)、  
染谷(長岡技術科学大学)、加部(シュメアザール)、篠原(東京工科大学)、中田(オープンシステム研  
究所)、松田(製品安全協会)、梶原(ビューローベリタス)
4. 配布資料
  - SSC・研・7-01 安全の“知”の整合～安全の‘State of the arts’を要求する責任と応える責任;  
杉本 旭(北九州市立大学)
  - SSC・研・7-02 安全確認型社会システム 加部 隆史(NPO 安全工学研究所)
  - SSC・研・7-03 プログラム 日本機械学会2004年次大会 特別行事 ワークショップ
5. 議事
  5. 1 “回転ドアの安全基準 A, B 規格に基づく正統な安全基準か?”
    - ・現在、検討中の回転ドアに関する C 規格(案)が公表された段階で、当研究会においても議論を進める。
  5. 2 日本ロボット学会サービスロボット安全認証研究会の状況について 杉本委員長
    - ・25名の委員が決まった。
    - ・6/18、名城大学(名古屋)において、発表会が行われる。
  5. 3 愛知万博サービスロボット展示のための安全基準作成委員会について 杉本委員長
    - ・2005年3月開催の愛知万博に向けた、サービスロボット展示のための標記委員会が 6/10、開催され、安全基準に関する講演を行った。委員10名、オブザーバー30名と、非常に関心の高い委員会であった。
    - ・愛知万博では、ロボット展示のために、安全の国際化にどう応えるかが、問われている。
    - ・中途半端な技術のデモ(ロボット展示)について、どのようなルールが必要か?
    - ・安全は「守り」の目的論;「何を」「何から」「どうやって」守るか、この考え方が非常に大事である。
    - ・免責の概念は日本にはない。日本人には、免責のための事前の準備(安全)の認識が希薄である。
    - ・なぜ展示したいのか?、その理由はなにか?。それによって、対処の仕方があるであろう。
    - ・展示によるベネフィットとは?、ベネフィットをどのように主張するのか?

5.4 安全工学シンポジウムについて

- ・7/1, 7/2 安全の知の統合について、シンポジウムが開催される。向殿先生オーガナイズ
- ・安全(知)の統合というよりは、整合ではないか

5.5 安全確認型社会システム 加部 隆史(NPO 安全工学研究所)

- ・これからの安全・安心社会におけるテクノロジー・アセスメントを介しての新たなステークホルダーとしての市民に対するインターロックシステムである安全確認型社会システムの提案。

5.6 その他

1) 次回(第8回)研究会開催予定

日時 2004年7月30日(金) 09:30~12:00

場所 日本機械学会会議室(東京・信濃町 煉瓦館5階)

2) 次回(第8回)研究会 話題提供 杉本委員長より(予定)

以上